

「リケジョ」どう増やす

理系女子「リケジョ」を増やし、活躍の場を広げようと「女性研究者支援」をテーマにした国際シンポジウムが東京都内で開かれた。海外の女性研究者が現状と課題を報告。社会の意識改革や支援プログラムの整備を求める意見が多かった。

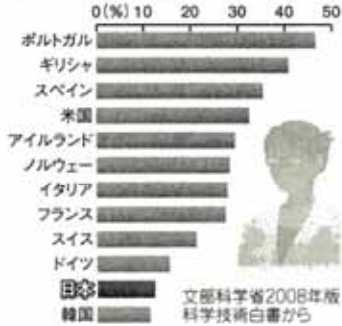
(折尾敏)

女性研究者支援のシンポ

「世の中の半分は女性」九年度科学技術振興調査。日本の人口は減少、整備の女性研究者支援割合が減少。女性の教員、若者も減って、モデル育成事業に同大の採用が採択されたのと同じ傾向にある。国際的シンポジウムを主催。女性研究者支援を聞いた東京都大(東京・世田谷)の中村英夫。各学科への女性教員採用や相談活動、産休・育休取得者への研究系武蔵工大が母体で業務支援をしている。女子学生、女性研究者三年間の事業の間、間まが少くない。男社会の風と、海外から女性研究者を招き、シンポジウムの中で、女性研究者が評価される機会を増やし、男女共同参画の実現につなげようとした。

【海外では】 ニュージーランド・カンタベリー大のゲイ。文部科学省の二〇〇八年版科学技術白書から。ポルトガル、ギリシャ、スペイン、米国、アイルランド、ノルウェー、イタリア、フランス、スイス、ドイツ、韓国。

女性研究者の比率



文部科学省2008年版科学技術白書から

ル・ギロン副学長は「国内の大学で講師は男女比が同じだが、上級職になるにつれて割合が減少。女性の教員、若者も減って、モデル育成事業に同大の採用が採択されたのと同じ傾向にある。国際的シンポジウムを主催。女性研究者支援を聞いた東京都大(東京・世田谷)の中村英夫。各学科への女性教員採用や相談活動、産休・育休取得者への研究系武蔵工大が母体で業務支援をしている。女子学生、女性研究者三年間の事業の間、間まが少くない。男社会の風と、海外から女性研究者を招き、シンポジウムの中で、女性研究者が評価される機会を増やし、男女共同参画の実現につなげようとした。」



女性研究者支援について話し合う海外の女性研究者や専門家。東京都大で。

家庭と両立 難しく

「イクメン」増やすのが先?

●記者のつぶやき

日本人のノーベル賞受賞者は今年の化学賞一人を含め十八人。女性はいない。科学技術立国を目指すなら、女子力が不可欠。リケジョが将来、リーダーになれる環境づくりが大切だ。そのためなら喜んでイクメンに!

東京都市大環境情報学部の小畑洋美教授は、集めた三回会報を出し、「家庭と仕事の両立が難しい。家事も育児もコミュニケーション技術も、研究を続けたりして、人材育成や時間の弾力化や保育施設増設など職場環境の改善を求める。」と報告。勤務先や大学、社会の支援の充実とともに重要視されたのが「夫の協力」。ギロンさんとリッチモンドさんは「夫が研究活動をサポートしてくれた」と振り返る。ギロンさんは「子育てに参加する男など周囲の支援態勢」が、女性が積極的に活躍する上で重要な存在を示し、実践。二月から四月にかけて適切な助言をする同僚や先輩の存在を挙げ、研究室の牧野一朗課長は「女性研究者が活躍するためには配偶者の協力が必要。男の育休取得は簡単ではないが、みんなが取っていかないと世の中は変わらない」と話す。